

日本指圧専門学校同窓会



会報

第 20 号

発行年月日 平成12年11月11日

発行人 会長 小林 秋朝

編集者 大西 正悦

日本指圧専門学校同窓会

東京都文京区小石川2-15-6

〒112-0002 TEL 03-3813-7354

題字 山内貞四郎



指圧を創り 世界に広めた偉大な恩師

浪越徳治郎理事長逝く

学校法人浪越学園 日本指圧専門学校浪越徳治郎理事長は、平成十二年九月二十五日、午前三時七分、肺炎のため入院先の東京日立病院で逝去された。享年九十四歳。

通夜は九月二十七日、密葬は九月二十八日、学校法人浪越学園 日本指圧専門学校葬は十月十一日、東京・小石川の浪越家菩提寺・伝通院で執り行われた。

通夜には千人、密葬には三百人、学校葬には千六百人を越える人が参列して先生を追慕した。

先生は昭和五十八年に勲四等旭日小綬章の荣誉に輝いているが、このたび正六位に叙せられた。

ご法名は光壽院徳誉明翁居士。

「指圧」に生きたそのご生涯



正六位に叙される 勲四等旭日小綬章



通夜

通夜は、二十七日、午後六時から七時まで。伝通院ご導師の読経、遺族、親族の焼香、一般の焼香と続き先生を敬慕し、別れを惜しむ人々が、広い境内を埋めた。

徳治郎先生のご法名は、光壽院徳誉明翁居士。

ご導師は「徳治郎先生は九十四歳まで生きさせてください。それは、お名前前の通り徳があったからである。先生は、ニコッと笑われ、ヤアヤアといわれる方であった。徳は、仏法では

光壽院徳誉明翁居士



ご導師入堂

一番大事なもので、一つは知徳、これは自らの知恵で得るもの。もう一つは修徳、この世に生をうけ、自らうけた徳を指圧の中に生かさ

れた。さらに明翁とした。明はともしびで、九十四年どこまでも、どこまでも明るいお姿であった。翁はめでたいということである。それに誉れをつけた。徳を治められた誉れである。これに院号の光壽をつけさせていただいた。明かりと光り、そこに先生の心からの笑顔がある。そのもとは無限の光である。明もめでたい、光もめでたい。明根とは命の根っこである。指圧で押せば押すほど命の泉が湧く、これが壽である。誉れである」と明らかにされた。

浪越徳治郎 先生 略歴

明治三十八年（一九〇五）十一月十五日、香川県に生まれる。七歳の時一家とともに北海道に移住。大正十四年、北海道室蘭市で指圧治療院を開業。昭和八年、東京に進出。昭和十五年、日本指圧学院を創設。昭和二十一年、日本指圧協会の会長に就任。昭和三十一年、厚生大臣認定・日本指圧専門学校校長に就任。昭和四十三年一月からNET（テレビ朝日）桂小金治アフタヌーンショー・指圧教室に出演、「指圧の心 母心」のスローガンで一世を風靡した。昭和六十二年四月一日、学校法人 浪越学園理事長に就任。笑おう会笑裁、日本随筆家協会会員。
著書「指圧療法全書」「指圧療法と生理学」「自分でできる3分間指圧・一三集」、自伝「おやゆび一代」、随筆「天地一指」「若さいいきき指圧法」。
叙勲 勲四等旭日小綬章（昭和五十八年四月）、正六位（平成十二年十月）。

赤々と一本の道とおりたり

挨拶する浪越満都子校長と会葬者



最後のお別れをする遺族



遺影をもつ浪越孝氏



喪主に連絡する藤田和子さん



密葬

密葬は、二十八日、午前
十時三十分から正午まで。
読経、焼香、一般の焼香と
続き、このあと大勢の人が
柩の先生を白い菊の花で包
んだ。位牌は、喪主浪越和
民氏、遺影は浪越孝氏にし
っかりと抱かれて出棺。
煙山力葬儀委員長は「巨
星墜つての感のする逝去であ
る。指庄一筋に生き、日本

父は満足の人生だった

和民氏

国内はもとより世界にまで
広められた。百歳まで生き
るといふ願いは届かなかつ
たが、他人の真似のできな
い人生であった。先生の柩
は、皆さんが入れて下さつ
たお花で、いっぱいになつ
た。多くの方々にご会葬い
ただき、心から感謝申し上
げます」とあいさつ。
田中四郎表町会長は「先
生は昭和二十四年設立され
た初代町会長であり、努力
と奉仕で町会の発展の基礎

を築かれた、いまでもお力
をかせていただいていた」と
と感謝した。
喪主浪越和民氏は「父は
十分に生き、満足の人生を
送ったと思う。指庄にかけ
た故人の意志を継承してい
きたい」とあいさつ。
浪越満都子校長は「父は
生涯現役であった。指庄道
発展のために、これからも
皆様のお力添えをお願いす
る」とあいさつした。

通夜、密葬に参列された
主な方々は前通産大臣深谷
隆司氏、衆議院議員中山義
活氏、桂小金治氏、相撲協
会理事佐渡ヶ嶽慶兼氏、元
関脇琴錦功宗氏、幕内琴乃
若晴将氏、藤沢宗義（琴乃
富士）氏、佳山明生氏。
海外からバロンビーニ・
フルビオリイタリア指庄学
校校長、因泥文彦アメリカ・
ハワイ愛泉指庄学校校長、
斎藤健泉・カナダ・トロント
指庄アカデミー校長、小
野田茂スペイン・マドリッ
ド日西指庄学校校長、池永
清日本指庄協会カナダ・パ
ンクーバー支部長など。
弔電を寄せられた主な人
元内閣総理大臣・衆議院議
員橋本龍太郎、民主党代表・
衆議院議員鳩山由紀夫、駐
日ベルギー大使ビクトル・ア
リトミ・シント、衆議院議
員中山義活、参議院議員真
鍋賢二、日本赤十字社東京
都支部長石原慎太郎、社団
法人東洋療法学校協会会長
後藤修司、筑波技術短期大
学長西條一止、株式会社富
士銀行頭取山本恵朗、株式
会社ニューオータニ代表取
締役社長大谷和彦、文京区
議会議長楠山正雄、香川県
多度津町長小國宏。

(順不同)

指圧の心 母心



全国津々浦々に指圧の効用広がる

学校葬

十月十一日、午前十時五十分、位牌は喪主浪越和民氏、遺骨は浪越満都子校長に抱かれ、三十人の在校生と同窓会役員が続いて、学校を出発。伝通院へ。

十月十一日、午前十時五十分、位牌は喪主浪越和民氏、遺骨は浪越満都子校長に抱かれ、三十人の在校生と同窓会役員が続いて、学校を出発。伝通院へ。

千六百人が境内埋める
弔電を披露。

千六百人が境内埋める
弔電を披露。



悲しいお別れの遺族



焼香する鳩山邦夫氏

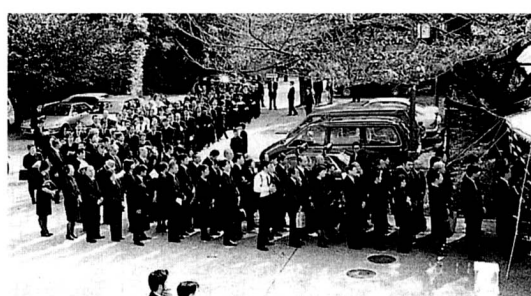


挨拶する浪越和民氏

や蘭に飾られ、正六位と勲四等旭日小綬章の勲記、勲章が飾られた祭壇に安置。十二時四十五分、司会の棟方宏一氏が「ただ今から故浪越徳治郎殿の本葬儀式を浪越家菩提寺浄土宗無量山伝通院ご導師並びに式衆のご出仕をたまわり、学校法人浪越学園 日本指圧専門学校葬をもって執り行います」と述べ、雅楽の響く中、導師、式衆の入堂。読経。

弔電を披露。
次いで「故人は昭和五十八年春の叙勲で勲四等旭日小綬章を受けられましたが、このたび、社会に対する多大の功績を讃え正六位に叙せられ、勲章、勲記ともにご霊前に供え申し上げました」と勲記を紹介。

遺族に続いて来賓焼香。主な人はオランダからロベルト・ダベルナさん、シルビア・ピンクスさん・ポウラ・コバヤシさん、メルボルンから浦川杏子さん、浦川実千代さん、台湾から陳美玉さんら五人、佳山明生氏、琴乃富士氏、表町会長田中四朗氏、日本指圧専門学校教授など。



ご導師、式衆退堂。

最後に喪主浪越和民氏は「多数の方々のご会葬をいただきありがとうございます。九十四歳の天寿を全うしたとはいえ、別れの時は、悲しく、淋しいものです。この盛大な葬儀を故人は喜んでいてと思います」と御礼のあいさつをした。午後三時十五分、位牌は浪越和民氏、遺骨は煙山力葬儀委員長から浪越満都子校長に手渡され、在校生と同窓会役員が続いて学校へ帰った。



一世を風靡した

天性の明るさ人を魅了

(要旨)

東京医療福祉専門学校校長
平川 信代

先生は一九六〇年代の終わりから七〇年代にかけてテレビに登場「指圧の心母心 押せば命の泉わく」と両手の親指を差し上げてワッハッハと声高らかに笑われたあのシーンが大変印

象に残っております。それは三十五歳以上の日本人は誰もが一度は拝見しているというほど一世を風靡したものでした。
これをきっかけに指圧は全国津々浦々まで知られ、指圧の効用が世間で認められるようになりました。
学校協会内でも、指圧の効用とあん摩の効用の論戦

にまで進み、種々臨床の結果、指圧の効用もあん摩と同等の効用があることが立証されました。
特定非営利活動法人日本指圧協会副理事長

田代 和平

先生は指圧業界の太陽と仰がれ、日本指圧協会の永世会長として五十有余年、秀れた実行力で指圧奉仕の母心運動を展開、まさに指圧業界の棟梁でした。

先生のあの薬手と称された指で、指圧治療を直接受けられた方々はおよそ三十

悲しみ乗り越え 指圧道発展目指す

煙山力葬儀委員長

先生は、指圧という言葉葉を万国共通のものにしたいという夢を抱き、指圧の発展のために一生を捧げられ今や、指圧は世界各地に広まり、その功績は、衆目の認めるところであります。

来日中の女優マリリン・モンローやボクシングの元世界チャンピオンのモハメド・アリを治療し、指圧を

万人、吉田茂、鳩山一郎、石橋湛山氏等十二代の総理大臣を始め政財界、官界、芸能界、スポーツ界等の著名人が含まれております。

昭和二十一年、日本指圧協会を創立してからの業績は枚挙に暇がありません。

指圧治療夏期大学を三十八年、東京都委託施術者講習会を三十二年、東京都指圧救護赤十字奉仕団の奉仕活動を十五年も自ら継続、実行されました。その成果が、今日の特定非営利活動法人日本指圧協会の誕生につながったものです。

沢 宣彦

先生の温かく、慈愛に満

世界に知らしめたことは、先生の大きな功績の一つでありました。
また長い間、私の後援会連合会長として、ご支援、ご鞭撻いただきました。

浪越満都子校長

本日は、皆様ご多忙のところ、長時間にわたりまして、たくさんの方々にご会葬賜り、誠にありがとうございました。

ちたお人柄と、天性の明るさは、先生に接するすべての人を魅了し、勇気づけて下さいました。

先生のご盛名の広がりとともに、先生のふるさととして、私どもの村もまた、広く世に知られるようになりました。

先生のご功績に対して、平成六年度の留寿都村民栄誉賞をお贈りし、一昨年は本村の「ふるさと公園」に先生の胸像を建立し、村民の誇りと希望の象徴とさせていただきます。

つねに明るく、ひとすじの道を歩みつづけられた先生のご高恩を思い、留寿都村の発展のために村民一同渾身の努力を重ねます。

指圧の創始者浪越徳治郎先生は指圧一筋に八十七年間、生涯現役で、天寿を全うされました。

私達の偉大な師であり、かけがいのない指導者で、その行動力、決断力は尊崇の的でありました。

私達は、この悲しみを乗り越え、皆様のご協力のものとさらなる指圧道発展のために努力してまいります。



桂氏 沢氏 田代氏 平川先生 小林氏

先生を誇りに

日本指圧専門学校同窓会会長

小林 秋 朝

浪越徳治郎先生、教え子
を代表して、謹んで先生の
ご霊前にお別れの言葉を申
し上げます。

私たちが先生のお名前を
慕って入学した時、先生は
指圧師として大成するには
まず学業を成就することに
す。これには三つの段階が
あります。それは発心、実
行、継続です。特に三つ目

弔辞

先生が手塩にかけて育て
あげ、先生の教えを受けて
巣立った万余の同窓生はみ
んな「浪越門下生」の誇り
をもって生きております。
想えば先生の九十四年の

明るい笑顔と大きな笑い
声で、日本中に健康の大切
さを教えてくれた浪越理事



草笛で「北国の春」を贈った桂小金治氏

ご生涯は、七歳の時、ご母
堂様への優しい手当から始
まり、建学六十周年を迎え
た今日まで、日本の隅々か
ら世界中に指圧を広められ
病に苦しむ人々を癒し、喜
びと救いをお与えになり、
慈しみ深く、愛を貫かれた
ご生涯でした。

今こうして先生のお写真
を拝見しますと、思い出が
幾重にも胸に浮かびます。
昭和五十一年十一月、ヨー
ロッパ医療団研修セミナー
に招聘されてフランスへ同
行させていただいた時の先
生の熱気溢れる指圧の披露
と講演、中世の面影を残す
城壁の街・サンマロで過ご
した日々、大西洋を望みな
長。私達は貴方を忘れませ
ん。

理事長はいいました。
「私は指圧を愛していま
す。愛とは、ほかのことを
考えないことです。指圧に

一粒万倍

友人代表
桂 小金治

よって、人々の体に安らぎ
を、心に栄養を与えたい。
指圧の心 母心 押せば命
の泉湧く」
指圧の道、ひとすじに生
きた理事長の不断の精進が



遺骨を本堂に運ぶ小林秋朝同窓会会長

がら高台を歩くあの勇姿。
上野公園での青空指圧は
今や母校の伝統となりまし
たが、亡き徹先生と私
で「どうしてもやりたい」と
先生にせがんで、初めて開

いた青空指圧の大成功を心
から喜んで下さったあの笑
顔が忘れられません。
母校創立五十周年記念事
業の胸像建立のお手伝いを
させていただきましたが、

一粒万倍、開花して指圧は
世界に広まり、シアツの言
葉は世界共通語となり、全
人類の健康増進に絶大な
効果を収めました。
その功績誠に大なり！理

好転して快眠、快食、快便、
快動、元氣矍鑠の毎日を過
ごしております。百歳まで
生きる！とおっしゃって
いた理事長の意を受けて、僕
は百歳まで生きられるよう
頑張ります。

事長は私達の誇りです。
継続は力なり、の教えを
守り、僕は、寝る前のお腹
の指圧をずーっと続けて来
ました。これからも続けま
す。お陰様で体調すこぶる

理事長！ 長いご活躍、
お疲れ様でした。
安らかにお休み下さい。
理事長が大好きだった北国
の春を献じてお別れします。
天国で毎日唄い続けて下
さい。ご冥福をお祈りして
おります。
浪越理事長先生。

この完成を記念しての先生
のレプリカ像は、今では懐
かしい思い出の品となりま
した。

忘れもしない本年五月二
十六日正午、病床の先生か
ら、お電話をいただきました。
一瞬、もう退院できる
までお元氣になられたのか
と、わが耳を疑いました。

やっとわかる言葉で「秋
朝さん、元氣になったら食
事に行こう」とのお誘いの
言葉でした。「ありがとう
ございます」：頭を下げて
受話器をそっと置きました。
今でも、あの時のお声が聞
こえるようです。

ご生前中に賜ったご薫陶
と汲めども尽きぬ恩愛に感
謝と御礼を申し上げます。
「指圧の心 母心」この
温かい響きと、この言葉に
込められた崇高な精神こそ
同窓生の誇りであり、命で
ございます。この精神を脈々
と受け継ぎ、先生が生涯
をかけられた偉大な指圧の
道を、先生のご遺徳とお導
きにより、ひたすら精進し
て行く覚悟でございます。

徳治郎先生、ありがとう
ございました。
先生、安らかにお眠り下
さい。

先生、さようなら。

勇気をくれた一言

佳山 明生

私と浪越徳治郎先生との
出会いは、ほぼ半世紀前
になります。「ああ、この方
があのアフタヌーンショー
の浪越先生だ」と感激した
ことを覚えていません。
「浪越です」「佳山です」
と握手をした後、先生はす
ぐに「君は酒を飲むのかね。
まあ一杯やりなさい」とこ



馳走してくれました。
その日から、ほとんど先
生と一緒にした。

指圧の国際大会にも一緒
に連れて行っていただきま
した。私の海外旅行初めて
の経験でした。

デビューする前「佳山君
は何になるつもりなの？」
と突然聞かれ「歌手になる



つもりで函館から家出して
きました」というと「ああ
君なら必ずできる」といつ
て下さいました。
その一言が、私の人生を
大きく良い方に変えてくれ

ました。あの一言がなかつ
たら、どうなっていたか。
もちろん「氷雨」も世の中
に出ていなかったと思いま
す。先生に勇気をいただい
た瞬間でした。

先生のお父さんは、お母

さんをととても大切にされた
そうです。そういうご両親
の下で育った先生だからこ
そ、あの「母心」が生まれ
たのだと思います。
先生と私の絆は永遠で
す。

娘と私の名付け親

藤沢 宗義

しています。

「琴乃富士」という四股
名も娘の「泉」という名前
も先生につけていただき親
子二代にわたるゴッドファ
ザーでもあります。

昭和四十二年五月、十五
歳の時、浪越先生に初めて
会って以来、先生を実の親
以上に頼りにしながら、右
も左もわからない新弟子の
頃から今日まで、相撲取り
として、また一人の人間と
して今あるのは先生がいて
くださったおかげだと思っ
ています。

④藤沢宗義氏⑤と佳山明生氏⑥ ⑦棟方宏一氏⑧と藤沢氏

「一病息災」

棟方 宏一

息災と言うけれど、本当は
一病息災なんです。あな
たはこれから肝臓を大事に
していけば、きつと長生き
できますよ。」
いまでこそよく耳にする
「一病息災」という言葉も
当時は聞いたことはなく、
浪越先生の造語だったので
しょう。とても物知りだっ
た浪越先生。「自分をいた
わる心」を教えてください。
た優しい先生でした。

昭和四十三年の夏「桂小
金治アフタヌーンショー」
を担当していた時のこと。
日頃の不振生がたたってか
これまで病気というものは
縁のなかつた私が、急性
肝炎になり、番組をしばら
く休む羽目になってしまっ
たのです。

休みはじめた翌々日の夕
方、浪越先生が横浜の自宅
までわざわざお見舞いにお
いでくださいました。そし
ていろいろなお話をなさり
ながら、丁寧に、本当に丁
寧に患部を中心にゆっくり
と指圧してくださいました。
「棟方さん、昔から無病

今日も神楽坂の路地から
「ワッハッハッ」と笑いな
がら、いろいろな店をはし
ごしてうちの店に入ってこ
れる、そんな気がします。



煙山力葬儀委員長



④在校生に見送られて柩は斎場へ ⑤遺骨は学校から伝通院へ



浪越満都子校長



⑥平川先生 ⑦沢氏



合掌する深谷隆司前通産大臣(右端)



どこまでも続いた会葬者



⑧佐渡ヶ嶽慶兼氏 ⑨琴錦功宗氏 ⑩琴乃若晴将氏